



提言「ママ・パパ子育て 応援ハウス」の設立

丸山 章（無所属）



Q 子育てする夫婦・一人親世帯は、仕事の調整や睡眠不足等で心身の疲労を蓄積させ、様々な病気のリスクを高めるほか、夫婦間の亀裂の一因にもなりかねないため、手厚い支援の整備は欠かせない。子育て支援施設を統合し、次の内容で応援ハウスを設立してどうか。①ワンストップで妊娠から子育ての事案に対応②ファミリーヘルプ保育園等に対応できなかった支援も行う③保護者の諸事情で乳幼児を預けた際、以後の対応は全て応援ハウスで行う④開設時間等の要望、希望を叶える⑤当市の南北に1箇所ずつ設置⑥国等のモデル地区指定を目指す。

A ファミリーヘルプ保育園、ファミリーサポートセンター、こどもセンターは、利用者の利便性の面で、それぞれの役割を十分果たしていることから、集約し新たに設置する考えはない。

センター病院改築をなぜ1年だけ先延ばし？

Q 1080万円の予算を投じ、専門家の助言指導を得てから改築したい意向だが、病院経営と改築は全く次元が異なる問題だ。後にも先にも病院経営を安定させる経営努力は行ってきたはず、なぜ同時並行で進められないのか。

A 令和8年度の改築に向けた準備期間と捉え、改築後の安定経営を見通すため、新たに専門家の助言指導を得て経営改善支援業務を実施する。



道の駅うみてらす名立 早期リニューアルを！

高山 ゆう子（市民クラブ）



Q うみてらす名立は当市の西の玄関口であり年間30万人が利用する道の駅であるが、築24年が経過し老朽化が激しい。2年前の質問時、今後大規模改修すると答弁されたが進捗状況は。

A 施設の老朽化、施設機能見直しの他、経営面も勘案し検討している。この2年は機能変更も含め現状課題について指定管理者と議論してきた。今年は基本構想の準備、来年から具体的に話を進め、令和12年頃の大規模改修を目指す。

Q 地元の関係者としてしっかり話し合いをするべきだと考えるがどうか。



A 令和7年から、地域の方と意見交換を行う。

女性の視点で考える防災、避難所運営を！

Q 今回導入を決めたトイレカーは建設現場等で働く女性のために開発されたもので、容量的にも避難所のような多数の利用を想定していない。今後、車椅子対応や赤ちゃん連れ等に配慮したトラックタイプを導入できないか。併せて、避難所に防災テントの配備を求めるがどうか。また、災害応援協定はどうなるか。

A 女性の視点を含めた提案について、しっかりと検討する。災害応援協定は今後となる。



南あわじ市提供



トラックタイプ



地域独自の予算事業を より良いかたちへ！

安田 佳世（久比岐野）



Q 補助上限額を新規提案事業は10分の7、既存事業は10分の9としているが、市の主要施策に沿った提案などについては、市が実施主体となつて直営での実施や業務委託、全額補助を行なったりする考えはないか。

A 市の施設の運営と一体となつて取り組むもの、市の施策や既存事業の目的等と合致するため市の責任で実施することが適当なものについては、直営または業務委託等により取り組む。また、提案のあった区以外でも同様の事業を実施する場合や、他の区の対象者も利用できる事業は、市の事業として取り組む。

Q 新規提案の補助率上限10分の7は、直ちに見直すべきと考えるがどうか。

A 実施団体へのアンケート調査で、補助率を引き下げていった場合に多くの団体において取組の継続が困難になることが見込まれたことから、経過措置の期間を延長して10分の9に据え置いている。新規事業については、相談や提案を受け付けてきた中で、補助率上限が10分の7では取組を実施できないといった声がほとんどなかったことから、現行の制度を据え置くこととした。今後は、地域自治の活動を活性化するための財源支援の仕組みとして、補助率を設けない方策案を検討していく。